

令和 2 年 6 月 29 日現在

機関番号：34317

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13400

研究課題名(和文) 谷崎潤一郎の自筆資料を用いた生成論的研究

研究課題名(英文) Textual genetic study of the novel's manuscripts by Tanizaki Jun'ichiro

研究代表者

西野 厚志(Nishino, Atsushi)

京都精華大学・人文学部・講師

研究者番号：00608937

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：谷崎の没後50年を機に、『谷崎潤一郎全集』(全二六巻、二〇一五～一七、中央公論新社)が刊行された。谷崎全集編集に関わった際に、小説の執筆に用いられた原資料と自筆原稿(『潤一郎訳源氏物語』(1939～41)、『細雪』(1943～48)、『A夫人の手紙』(1946/1950))を調査した。本研究では、小説の生成過程と谷崎の書き換えと素材に施された虚構化の効果を分析し、戦中の時代状況や検閲制度と戦後のそれらが交錯する様相を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

谷崎潤一郎の半世紀にもわたる創作活動の特質は、日本が近代化してゆくなかで経験した様々な同時代現象(文化・社会・政治、検閲制度などの権力機構)を詳細に描き出した点にある。近年、新全集刊行やメディアでの特集、回顧展や国際会議の開催など国内外の関心が集まるなど再評価の機運が高まるいま、谷崎の残した草稿類(自筆原稿・書簡など)を調査と発掘に基づいて作品の生成過程や創作のメカニズムを探る本研究は、谷崎潤一郎の芸術表現が持つ社会的意義を明らかにするとともに、現在私たちが直面している諸問題を考察・解決することに寄与するであろう。

研究成果の概要(英文)：In the year marked the 50th anniversary of Tanizaki's death, The Complete Works of Tanizaki Jun'ichiro [26 volumes, 2015-17, Chuo Koron Shinsha] was released. I studied both the source materials and the novel's manuscript 'The tale of Genji Translated by Tanizaki [1939-41], the Makioka sisters [1943-48], Mrs. A's Letters [1946/1950] while editing The Complete Works of Tanizaki. In this study, I analyze Tanizaki's process of composing the novel and the resulting effects of rewriting the materials in a fictional form with the aim of clarifying how the situation during the war and wartime censorship intersect with the post-war Occupation period.

研究分野：日本近代文学

キーワード：谷崎潤一郎 日本近代文学 源氏物語 古典受容 検閲 占領期 自筆原稿

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

これまで、申請者は、谷崎潤一郎(1886~1965)のテクストを対象に、なかでも、谷崎が戦前・戦後にてがけた現代語訳「源氏物語」(「谷崎源氏」)の検閲・削除問題の究明に力を注いできた。また、谷崎が没後50年・生誕130年をむかえた2015・16年に新しい『谷崎潤一郎全集』(全26巻、中央公論新社)が刊行された際には「細雪」が収録された巻の解題を担当し、自筆原稿や著者書入れ本など草稿類について加筆・修正された箇所を抽出、初出誌や初刊本の本文との異同を確認した。本研究課題では、これまで行ってきた資料調査に基づく実証的な研究を継続しつつ、生成論という理論的な観点を付加した。

生成論(ジェネティック)、あるいは生成批評(クリティック・ジェネティック)とは、自筆資料などを参照しながら作品の成立史を明らかにし、それを作家に統御された草稿から最終稿へと至る目的論的な創作過程としてではなく、様々な諸力が織りなすテクストの動的な生成過程として捉える視座である(松澤和宏『生成論の探求』2003、名古屋大学出版会)。

生成論の対象には、着想やプロットを書き留めたメモやノート(前推敲段階)、削除と加筆の痕跡を留める下書き(推敲段階)、清書原稿や校正刷(前刊行段階)、刊行後の様々な異文(ヴァリエーション)(編集・刊行段階)が含まれる。例えば、「細雪」であれば、まず、自筆原稿(中央公論新社蔵)、反故原稿(芦屋市谷崎潤一郎記念館・日本近代文学館蔵)、ゲラ(私家版中巻、下巻の初出誌の一部)など刊行前の資料。初出誌(『中央公論』1943・1、3/『婦人公論』1947・3~48・10)、私家版(上巻のみ、1944)、私家版著者手入れ本(日本近代文学館蔵)、初刊本(1946~47、中央公論社)。また、著者生前刊行の自選全集第二24~26巻(1958~59、同)に収録されて本文が確定するまで、そのすべてが参照すべき主な範囲となる。

先述の通り、2015年には谷崎は没後50年をむかえた。これを機に数々の新資料が発見されたが、なかでも所在が不明であった「細雪」などの構想を記したノート「松の木陰」の発見は大きな出来事であった(「谷崎 幻の創作ノート」『読売新聞』2015・4・3)。新全集には、様々な異文を比較した詳細な校異がはじめて付されるとともに、この新発見の創作ノートや草稿類が初収録された。

日本文学を対象とした生成論の成果としては、渡部麻実『流動するテクスト 堀辰雄』(2008、翰林書房)や戸松泉『複数のテクストへ 樋口一葉と草稿研究』(2010、同)などがある。谷崎研究に限っていえば、たつみ都志「照合「春琴抄」原稿・初出誌との相違にみる作者意図」(『武庫川国文』1989・12)、明里千章「谷崎潤一郎「盲目物語」初稿 冒頭の翻刻・解題」(『金蘭国文』1997・3)、千葉俊二「館蔵資料紹介 谷崎潤一郎「人魚の嘆き」「青塚氏の話」原稿」(『日本近代文学館』2003・3)、同「谷崎潤一郎『夢の浮橋』草稿の研究」1~4(『日本文芸の表現史』2001、おうふう/『早稲田大学教育学部学術研究 国語・国文学編』2001・10~06・2)、五味淵典嗣「文字と変身 谷崎潤一郎の原稿から」(『三田文学』2015・7)などがあるものの、本格的な生成論的な研究はまだ発展の余地がある。谷崎全集の刊行により資料整備が飛躍的になされたいまこそ、変化してゆくテクストの運動を捉える生成論的な研究がなされるべきであろう。

2. 研究の目的

あらためて谷崎潤一郎の生涯と文学活動を振り返れば、江戸情緒を残す東京の日本橋に生まれ育った彼は、小説家としてデビューした当初から、言語表現以外にも写真や映画といった近代以後に登場した新興メディアに関心を示し、異国(中国や欧米諸国)の文化に強い憧憬を抱いた。その後、関東大震災(1923)をきっかけに関西へ移住してからは、「源氏物語」等の古典文学の受容をとおして日本の伝統文化へと回帰していく。また、その約半世紀にもわたる活動を通して、戦前に取り組んだ「源氏物語」現代語訳の難航、代表作「細雪」への軍部の介入による連載中止、戦後第一作「A夫人の手紙」のGHQによる掲載禁止など、検閲制度との葛藤を体験し続けた。

以上見たように、谷崎文学の特色は、先端的な文化現象への反応、自身の表現行為の前提となる歴史的・地政学的条件の再検討、表現の自由の可能性の追求などを通して、日本が迎ってきた近代の諸相(文化・社会・政治、検閲制度などの権力機構)を意識的・無意識的に描き出している点にあるといえるだろう。

本研究課題の目的は、谷崎の文学的営為の限界や問題点の解明を通して、現在の私達が直面する諸問題(芸術と市場・国家との関係、学問の有用性と自律性、人文学の危機など)を批判的に検討する点にこそある。

また、谷崎の自筆資料は文化財の観点から見ても価値あるものであるが、今回取り上げる谷崎の自筆資料の多くが現在非公開で閲覧は容易でない。谷崎の自筆資料の発掘・保存と公開の促進は急務であり、本研究課題の遂行によって、さらなる新資料の出現をうながすことも狙いのひとつである。

3. 研究の方法

谷崎潤一郎の創作のメカニズムや外的な要因(社会情勢や検閲制度)との間の力学を生成論的観点から解明するために、おもに以下に挙げる三作品の自筆資料を研究対象とする。(1)戦時下版「谷崎源氏」(編集者宛て書簡、自筆原稿)(2)「A夫人の手紙」(執筆時に谷崎が参考にした素材、自筆原稿、検閲済み校正刷、初出誌。初刊本)(3)「細雪」(創作ノート、自筆原稿

など)。作業手順は二段階にわけられる。

まず、第一段階として、書簡類・素材を翻刻したうえで注釈を施し、創作ノート・自筆原稿については加筆修正された箇所を抽出して、相互に関連付けた。

次に、第二段階として、作品表現の生成過程を(1)内的生成と(2)外的生成という二つの観点から検討した。生成論は、草稿から最終稿へと至る目的論的な創作過程を究明する従来の草稿研究とは異なり、先行する文学作品との関係、検閲制度のような社会的な圧力など、様々な要素が織りなすテキストの動的な生成過程を捉える点にこそ特色がある(松澤和宏『生成論の探求』前出)。その観点から、多様な時代状況や言説編成との対話(同調・反発)の中で継続された谷崎の文学的営為の今日的意義について考察した。

(1) 内的生成という観点からの作品分析

内的生成とは、作家が外部の情報や資料に依拠せずに、原稿を書き自ら読み返し書き直すという書記行為を通して、テキストを練り上げ変形してゆく過程だと定義できる。谷崎の自筆資料からは推敲(削除・加筆)の痕跡を多く読み取ることができるが、ここから「作者の書く行為そのものを広義の作品と考え、その行為の持続の中に運動としてのテキストを認める」(田口紀子『生成論の射程』『文学作品が生まれるとき 生成のフランス文学』2010、京都大学学術出版会)という視座が開けてくる。この生成論の視点から、創作のメカニズムの解明に努めた。

(2) 外的生成という観点からの作品分析

外的生成とは、作品の外部に源泉を持つ情報を調査・選択・統合してゆく過程を指すが、その際に自主規制という形で影響を及ぼす検閲制度などの社会的圧力も作品形成の一契機と捉えることができる。特に谷崎作品を対象とする場合には、戦前に取り組んだ「源氏物語」現代語訳の難航、代表作「細雪」に対する軍部の介入による連載中止、戦後第一作「A夫人の手紙」のGHQによる掲載禁止など、外的な要因を勘案することが重要となる。近年、紅野謙介『検閲と文学 1920年代の攻防』(2009、河出書房新社)や牧義之『伏字の文化史 - 検閲・文学・出版』(2014、森話社)などが解明しつつある「内閲」(内務省が慣例的に行っていた事前検閲)、井川充雄『戦後新興紙とGHQ 新聞用紙をめぐる攻防』(2008、世界思想社)や五味淵典嗣「紙の支配と紙による支配 《出版新体制》と権力の表象」(『Intelligence』2012・3)などが主題化している「用紙統制」(ハード面での言論統制)といった最新の検閲研究に関する重要事項も視野に入れつつ、作品執筆と外的な要因(社会情勢や検閲制度)との間に作用する力学を明らかにした。

4. 研究成果

谷崎の自筆資料を用いた小説テキストの生成論的分析として、主に以下のような成果を出した。

(1) 戦時下版「谷崎源氏」について

編集者(木内高音)宛て谷崎書簡49通(早稲田大学中央図書館所蔵)を翻刻し、木内高音の履歴を中心とした解題、関係者の人名などに注釈を付して「新資料紹介 木内高音宛谷崎潤一郎書簡四十四通(解題・翻刻・注釈)」(『早稲田大学図書館紀要』)として発表した。調査と分析の結果、戦前の内務省による検閲制度の一部として運用されていた「内閲」(事前検閲)の実態の一端と、「内閲」の運用期間(1917~27頃)外にもかわらず「谷崎源氏」(1939~41)に対して例外的に適用されていたという事実が新たにわかった。このことから、一部表現が削除されながら、時代のなかで複雑に形づくられていった戦時下版「谷崎源氏」の成立事情が浮き彫りとなった。

(2) 「A夫人の手紙」について

小説執筆時に谷崎が参考にした原資料(谷崎夫人宛ての友人の手紙)について、書簡3通の文章を翻刻して人名や歴史的事項に注釈を付け、原資料の発信者の遺族への取材の結果を解題にまとめ、「谷崎潤一郎「A夫人の手紙」素材・周辺資料紹介(翻刻・比較・注釈)」(『京都精華大学紀要』)として発表した。原資料と小説テキストを比較した結果、テキストの四分の三(約六七〇〇字のうち約五一〇〇字)が素材からの引用であり、書簡中の図解(戦時中の飛行訓練の様子)はそっくりそのまま小説へとうつされていることがわかった。そのことから、谷崎が他人の手による書簡を素材にしながら加筆した箇所が具体的に判明し、谷崎の創作の手法が明らかになった。

資料紹介に続き、論考篇として「燃え上がる 手紙/文学(レターズ) 原資料・自筆原稿と用紙問題からみる谷崎潤一郎「A夫人の手紙」」(『日本近代文学』)を発表した。本稿では、原資料・自筆原稿・検閲済み校正刷・初出誌・初刊本の調査と比較を踏まえて、小説の生成過程と谷崎の書き換えと素材に施された虚構化の効果を分析した。分析の結果、原資料が書かれた戦時下と小説が執筆された戦後が「検閲」や「用紙統制」という連続した言論状況にあることがわかった。そのことから、「A夫人の手紙」に見られる「紙」というメディアに対する視角を谷崎の文学的営為全体の中に位置づけることを試みた。

上記の他に、一連の研究の過程(研究テーマの着想、資料調査の方法、遺族への取材、大学での教育活動への還元など)を、「谷崎潤一郎論 “ずくし” を巡る冒険」(『テクネ』)として発表した。

(3) 「細雪」の自筆原稿や著者書入れ本など草稿類を調査した『谷崎潤一郎全集』第19・2

0巻の「解題」の成果をもとに、生成論的分析ならびに文学作品と社会との関わりについて、『京都新聞』紙上の「人文知のフロンティア」のコーナーで論じ、研究を広く社会に発信した（「時代に翻弄される谷崎 権力を「忖度」しつつ退廃美を追究」3面、2020年6月24日夕刊）。

(4) その他

2019年5月に亡くなった日本を代表する女優・京マチ子と谷崎潤一郎との関わりについて、「美しい国の美しい人 谷崎潤一郎と京マチ子」(『ユリイカ』2019・8)を発表した。決定版『谷崎潤一郎全集』(2015～17)に未収録の新資料を使用して、谷崎文学における小説と映画というふたつのメディアの同調と反発の効果によってテキストが生成する契機について論じた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 西野厚志	4. 巻 49665
2. 論文標題 人文知のフロンティア 時代に翻弄される谷崎	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 京都新聞	6. 最初と最後の頁 3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 西野厚志	4. 巻 39
2. 論文標題 谷崎潤一郎論“ずくし”を巡る冒険	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 テクネ	6. 最初と最後の頁 10・15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 西野厚志	4. 巻 51(13)
2. 論文標題 美しい国の美しい人 谷崎潤一郎と京マチ子	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 48・55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 西野厚志	4. 巻 52
2. 論文標題 谷崎潤一郎「A夫人の手紙」素材・周辺資料紹介（翻刻・比較・注釈）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京都精華大学紀要	6. 最初と最後の頁 223・203
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 西野厚志	4. 巻 101
2. 論文標題 燃え上がる 手紙 / 文学(レターズ) 原資料・自筆原稿と用紙問題からみる谷崎潤一郎「A夫人の手紙」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本近代文学	6. 最初と最後の頁 95・111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西野厚志	4. 巻 108
2. 論文標題 プラトンの師弟愛	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 早稲田大学国文学会 国文ニュース	6. 最初と最後の頁 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西野厚志	4. 巻 39
2. 論文標題 現場から 文学の現場(フィールド)と想像力	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 早稲田大学国語教育	6. 最初と最後の頁 89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西野厚志	4. 巻 100
2. 論文標題 書評 岡和田晃著『反ヘイト・反新自由主義の批評精神 いま読まれるべき 文学 とは何か』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本近代文学	6. 最初と最後の頁 143・146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西野厚志	4. 巻 65
2. 論文標題 新資料紹介 木内高音宛谷崎潤一郎書簡四十四通(解題・翻刻・注釈)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 早稲田大学図書館紀要	6. 最初と最後の頁 46 - 72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) info:doi/10.20556/00056862	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計10件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 西野厚志
2. 発表標題 銀幕に輝く小説のヒロインたち ~ 谷崎潤一郎の文学と映画制作を中心に ~
3. 学会等名 大学コンソーシアム京都主催京カレッジ大学リレー講座
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西野厚志
2. 発表標題 私はお前の足に踏まれながら死ぬ!! ~ 谷崎潤一郎と映画のアブない関係 ~
3. 学会等名 元町映画館
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西野厚志
2. 発表標題 現代の文学と 物語 の力 ~ 谷崎潤一郎・「源氏物語」・村上春樹 ~
3. 学会等名 大学コンソーシアム京都主催京カレッジ大学リレー講座
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西野厚志
2. 発表標題 「谷崎源氏」殺人事件～事件の幕開け～
3. 学会等名 猫町倶楽部名古屋文学サロン月曜会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西野厚志
2. 発表標題 谷崎潤一郎『細雪』の世界
3. 学会等名 猫町倶楽部名古屋文学サロン月曜会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西野厚志
2. 発表標題 谷崎潤一郎『細雪』の世界 - 創作ノート・自筆原稿から見えるもの -
3. 学会等名 神戸文学館
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西野厚志
2. 発表標題 文学と表現の自由 - 谷崎潤一郎の現代語訳「源氏物語」と「細雪」を中心に -
3. 学会等名 大学コンソーシアム京都主催京カレッジ大学リレー講座
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西野厚志
2. 発表標題 僕は彼女の踵になりたい 一文豪！！谷崎潤一郎先生の異常な愛情ー
3. 学会等名 枚方鳶屋書店
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西野厚志
2. 発表標題 谷崎文学を歩く
3. 学会等名 京都精華大学
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西野厚志
2. 発表標題 「ほの白い夢の世界」をさまよう ー谷崎潤一郎「夢の浮橋」を読むー
3. 学会等名 猫町倶楽部
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----